移動支援をはじめたら、地域が介護予防に熱心になった話

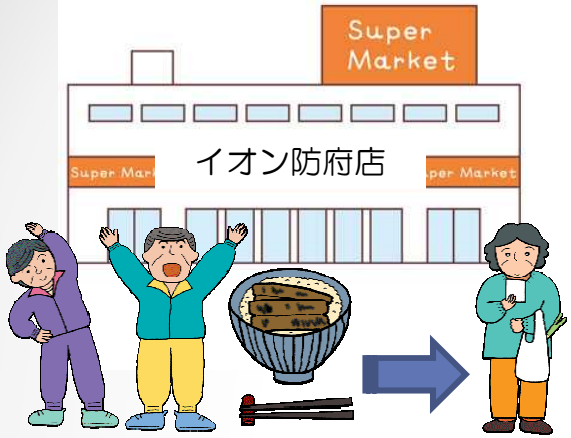
山口県防府市高齢福祉課　主幹　中村　一朗

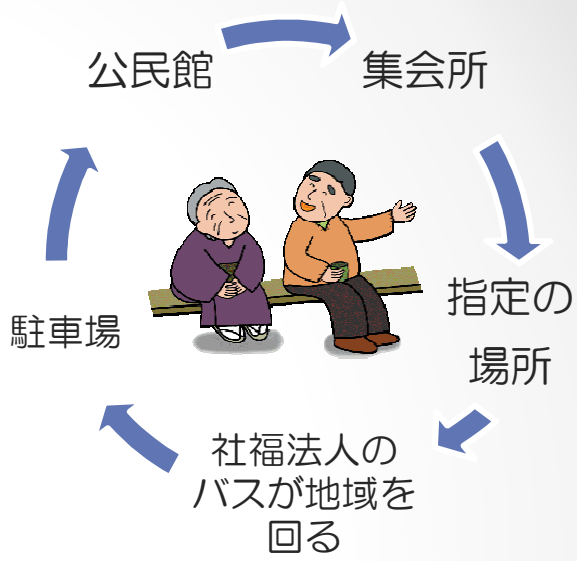
【防府市】
人口116,482名
189.37ｋ㎡
高齢化率　29.8%
75歳以上　14.7%
介護給付費　92億
認定率　20.8%
保険料　5,468円

【向島地域】
人口　1,318名
高齢化率　49.5%
75歳以上　27.2%
漁村

軽度認定率と軽度認定者の通所サービス需給率が全国有数

幸せます健康くらぶ





介護専門職による「介護予防教室」→昼食→お買い物

□■□　予　定　表　□■□

10：00～　送迎
11：00～　介護予防教室
12：00～　昼食
12：45～　自由行動
（買物・おしゃべり）
14：00～　現地出発

□■□　開 催 頻 度　□■□

月2回（第2，４水曜日）

□■□　参加費について　□■□

一律500円（昼食別）

@2,500円の本サービス費用の１割250円と
損害賠償保険料及び諸費250円
（サービス費用の残り2,250円を事業所に委託）

□■□　参加者について　□■□

①要支援及び事業対象者
②65歳以上の元気高齢者
（ただし見守り等の運営補助をすることが条件）
⇒※2,250円分、介護事業所のお手伝い

幸せます健康くらぶ

地域を出発（バスの停車場所は、地域が決定。
社福法人職員が運転と乗車補助）

介護予防教室は、
「やまぐち元気アップ体操」
のあと、認知症予防の運動や転倒
防止対策などを行っています。

普段あまり家から出ないのですが、友達に声をかけてもらって、参加してよかったです。

腰が悪いので、こういう体操が出来ないかなと思っていました。家でも続けたいと思います。

**テスト実施後、みんなで買物に行くことと同じくらい
介護予防教室が楽しかった、という意見が多かった。**

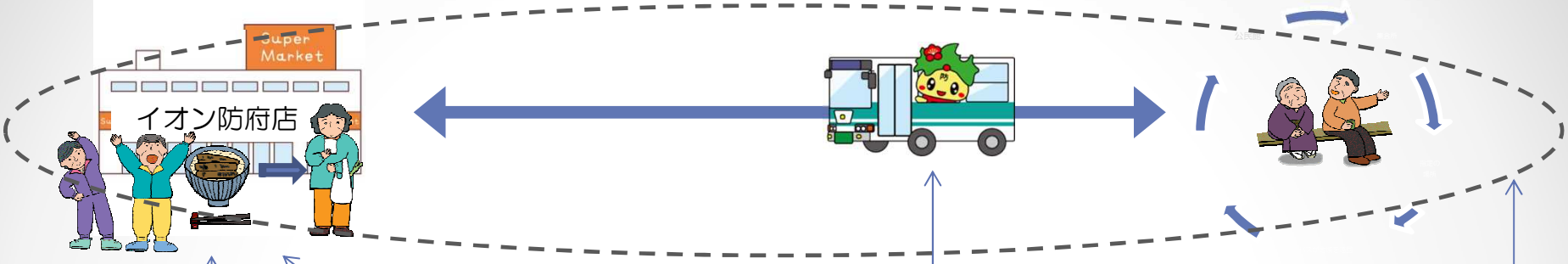
幸せます健康くらぶ

- イオンでは、単独行動をしないという約束。
- 委託事業所の職員や地域の方が、緩やかに見守っています。
- 参加者は腕にリボンを付けていて、もし何かあったら、委託事業者に連絡するよう、イオンにお願いしています。

- フードコートなので、地域の方が手伝う場合があります。
（最近は、みんな慣れました。）
- 参加者も地域の方も職員も一緒に食事をして交流しています。

テスト実施後、みんなで会場やルールを決めました。

「幸せます健康くらぶ」の仕組み



介護予防教室
見守り活動
その他事務

会場提供
見守り

バス運行

委託事業所との協働
地域の意見集約

通所介護事業所

イオン防府店

社会福祉法人
蓬莱会

地域
（にしき健康くらぶ後援会）

業務委託
サービスAの基準
@2,250

協力要請

燃料費実費補助
訪問サービスD

民生委員、自治会長を含む地域住民で構成
↓
地域の高齢者問題の総合窓口化

活動補助
サービスB
@2,000/回

防府市

年間予算は１００万円を少し越える程度。
市がバスを運行させていたら、
「地域づくり」に繋がらなかった。

「幸せます健康くらぶ」実施までの経緯

介護予防教室を
普及させろ

住民主体サービス

高齢者の生活支援

楽しいこと

地域の協力の下、
商業施設の中で
介護予防教室を
開催すればいい

バス予算「ムリ」
地域は？「ムリ」

?

地域に仕事を
押し付けるな

地域や企業など様々な主体と話を
したが、行き着くところは、
「移動支援をどうするのか」

防府市観光キャラクター　ぶっちー

「幸せます健康くらぶ」実施までの経緯

移動支援

地域ケア会議の議題等をみると、高齢者の移動支援を地域課題と見る地域が多かった。（地域のニーズ）

✖

介護予防

保険者にとっては「介護予防」が、大きな課題。
（保険者のニーズ）
介護予防を課題とする地域は少ない。
⇒なかなか地域は乗ってこない。
しかし、やってみると「介護予防教室」は喜ばれる。

➡

地域づくり

移動支援をきっかけに
住民を地域づくりに引込み、
そこに介護予防をパッケージ
する戦略が有効。
地域のニーズ優先

「幸せます健康くらぶ」実施への突破口

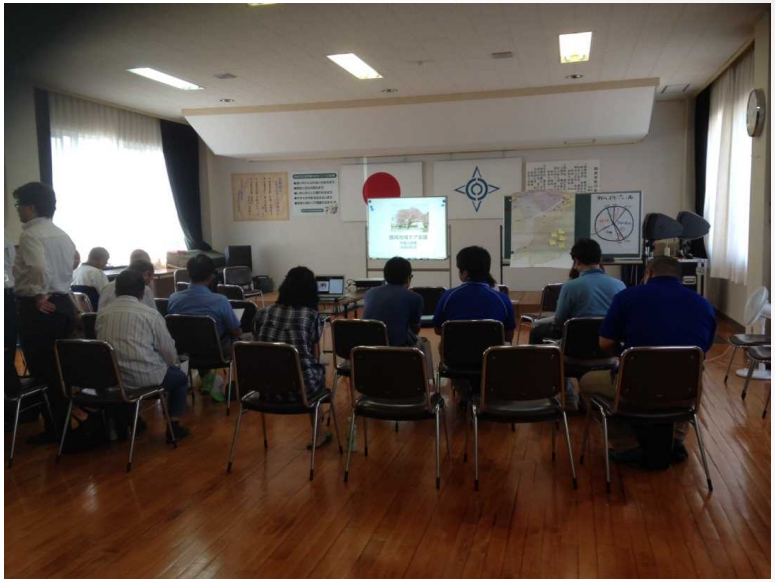
地域ケア会議　H28.8.2

これ以降、民児協定例会に関係者が集まり、私（SC）の新サービス案のテスト実施について検討することになった。

問題を共有し　⇒　目的を持つチームを作った。

（地域ケア会議）　　（協議体）

地域ケア会議から３ヵ月後にはテスト。



社会福祉法人制度の改革（主な内容）

○ 公益性・非営利性を確保する観点から制度を見直し、国民に対する説明責任を果たし、地域社会に貢献する法人の在り方を徹底する。

1. 経営組織のガバナンスの強化 □ 理事・理事長に対する牽制機能の発揮 □ 財務会計に係るチェック体制の整備	○ 議決機関としての評議員会を必置　※理事等の選任・解任や役員報酬の決定など重要事項を決議 （注）小規模法人について評議員定数に係る経過措置を設ける。 ○ 役員・理事会・評議員会の権限・責任に係る規定の整備 ○ 親族等特殊関係者の理事等への選任の制限に係る規定の整備 ○ 一定規模以上の法人への会計監査人の導入　等
2. 事業運営の透明性の向上 □ 財務諸表の公表等について法律上明記	○ 閲覧対象書類の拡大と閲覧請求者の国民一般への拡大 ○ 財務諸表、現況報告書（役員報酬総額、役員等関係者との取引内容を含む。）、役員報酬基準の公表に係る規定の整備　等
3. 財務規律の強化 ① 適正かつ公正な支出管理の確保 ② いわゆる内部留保の明確化 ③ 社会福祉事業等への計画的な再投資	① 役員報酬基準の作成と公表、役員等関係者への特別の利益供与を禁止 等 ② 純資産から事業継続に必要な財産（※）の額を控除し、福祉サービスに再投下可能な財産額（「社会福祉充実残額」）を明確化 ※①事業に活用する土地、建物等 ②建物の建替、修繕に必要な資金 ③必要な運転資金 ④基本金、国庫補助等特別積立金 ③ 再投下可能な財産額がある社会福祉法人に対して、社会福祉事業又は公益事業の新規実施・拡充に係る計画の作成を義務づけ（①社会福祉事業、②地域公益事業、③その他公益事業の順に検討）　等
4. 地域における公益的な取組を実施する責務 □ 社会福祉法人の本旨に従い他の主体では困難な福祉ニーズへの対応を求める	○ 社会福祉事業又は公益事業を行うに当たり、日常生活又は社会生活上支援を要する者に対する無料又は低額の料金で福祉サービスを提供することを責務として規定　※利用者負担の軽減、無料又は低額による高齢者の生活支援等
5. 行政の関与の在り方 □ 所轄庁による指導監督の機能強化 □ 国・都道府県・市の連携を推進	○ 都道府県の役割として、市による指導監督の支援を位置づけ ○ 経営改善や法令遵守について、柔軟に指導監督する仕組み（勧告等）に関する規定を整備 ○ 都道府県による財務諸表等の収集・分析・活用、国による全国的なデータベースの整備　等

社会福祉法人制度改革

※地域ケア会議後の施設長と私の会話
「なにか地域のお役にたてませんか？」
「マイクロ出せない？」
「そんなことでいいんすか？」
「うん」

社福法人の参画が、移動支援の近道

サービス開発中に気づいたこと

「すべき」より「やる気」

「市全域で実施すべき」「交通弱者の多い地域から実施すべき」と綺麗ごとを並べて、どこでも実施できずに地域が沈んでいくより、やる気のある地域をしっかりサポートして、身近な成功事例を他地域に示せばよい。

格差上等！

地域の実情で事業を行うのだから、格差ができるのは当然。市町村間で格差があるように、地域間でも出るのはあたりまえ。

身近な成功事例で、渇望感を与えるくらいでちょうどいい。

その代わり、地域に言い訳できないくらい説明すべき。

総合事業はチャンス

「総合事業は大きな変革。だからチャンスじゃないか」と事業所を煽ったことで、やる気のある若い事業所や地域を見つけた。

彼らが、様々な面でアイデアを出して、行政職を補完する人材になってくれた。

サービス開発中に気づいたこと

「議論」より「テスト」

机上で議論してるアイデアなんて、たいしたもんじゃない。
迷わず行けよ。行けばわかるさ。

いつでも撤退できるくらいの気楽さで

住民主体サービスは、予算がなくてもできる、いつでも撤退できるようなものでちょうどいい。だから、予算をとってから始めなくて良い。
やめられる程度のもののほうが、住民も乗りやすい。

会議の目的がはっきりする

会議には「実施テストの準備」「反省会をしよう」という目的があるべき。
「サービス作り」というより、「きっかけ作り」になる。

テストしたら止められない

実際にテストをやって、参加者があれば、なかなか「止めよう」とはならない。
地域の役員もプライドがある。

サービス開発中に気づいたこと

行政の柔軟な対応

先にルールを決めて、自由な発想が生まれるわけがない。
「地域の特性に合わせて」なら、柔軟な対応ができる体制でないとムリ。
その地域で「できること」「できないこと」を行政が決めてどうするの。

会議で発言できる住民はいない

向島の民生委員さんの言葉です。会議を開いただけで、仕事した気になるな。

雑談のなかで出てきたアイデアを形にするのが、おまえ（SC）の仕事。

いろんなところで、いろんな方法で意見が伝わってきて、それを繋ぎあわせてテストや要綱の素案を作り、それを会議で評価してもらいました。

ルールはあとで考えま～す

やる気のある地域は、こんな言葉で十分です。補助団体に対して疑念を持つ気持ちは、よくわかりますが、サービスを作る過程に参加していれば、杞憂に終わります。

サービス開発中に気づいたこと

住民が決める

行政特有の面倒な手続きは省けます……

社福法人を説得するのも地域

　我々がお願いしても断れるでしょうが、地域貢献を求められている社福法人が、地域に協力を求められて断れますかね（笑）

ニーズにあったサービスができあがります

　「自分達が作った」という効果は大きい。地域の声を随時、活かすことが可能。

市が設定できる≠市職員が決める

　住民主体はもちろんですし、サービスAやCも同様ですよね。
　防府市は、行政、地域、事業所がチームになって、総合事業のサービスを設定していく予定です。

サービス開発中に気づいたこと

最大の課題は、生活支援コーディネーターの技量

生活支援コーディネーターは本当に大変なお仕事です。
生活支援体制整備事業は、結局、ここにかかっていますよね？

人材を見つける

〇〇会長だから、△△委員だから、で良いのか？
認知度アップも必要。

人材を育てる

様々な場面で、バックアップは大切です。
そのためにも、柔軟な行政であるべきです。

地域づくりは、結局は「人」の問題。

（後列左から）
防府南地域包括支援センター長、担当ＳＣ、
防府市通所サービス連絡協議会

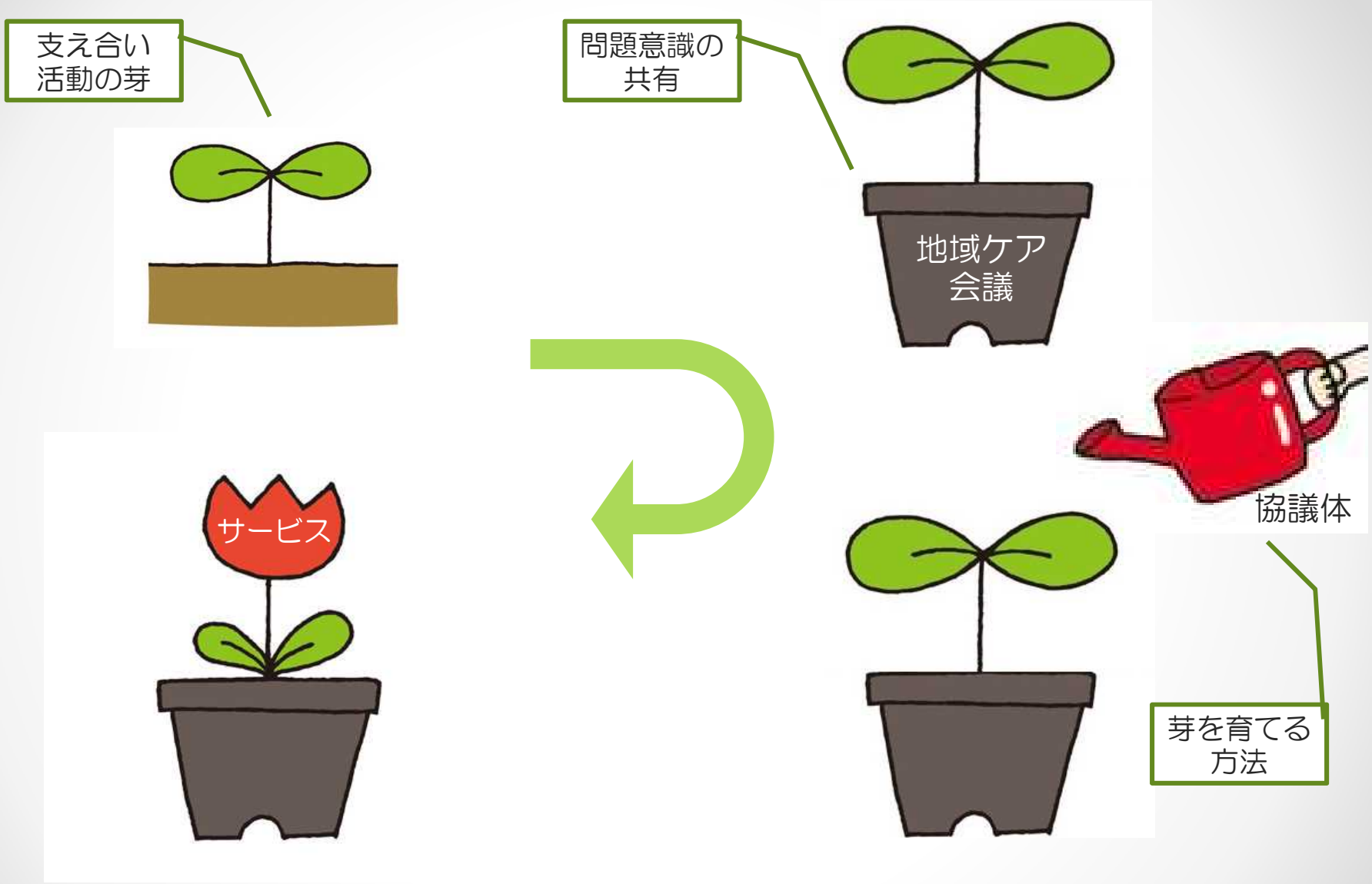
（前列左から）
向島「にしき」健康くらぶ後援会の師匠達
（梅田さん、椙山さん、宮本さん）
互助の意識に溢れた活躍ぶりは、まさに
「歩く地域共生社会」です。

支え合い活動がある地域だからこそ、すんなりとサービスができた。

地域課題の解決を目指す日常の活動の一環、という認識で取り組まれています。
元々あった活動の同心円上に「幸せます健康くらぶ」を乗せただけ。
⇒支え合い活動の少ない地域（団体）のサービス提供は難しい。地域ケア会議等を使って、
地域が問題意識を共有し、支え合い活動を定着させるところからスタート。

今は「買物支援」より「介護予防」の推進について熱く語られます。

向島にいくつも「介護予防教室」「通いの場」ができました。
地域課題の解決（ニーズ）が、意識を「新しい課題」へと向わせた。
⇒小さな「芽」を大きく育てる手段として、サービス開発は役立った。



芽がなければ、花は咲かない。

「幸せます健康くらぶ」がもたらせたもの

介護予防の意識が
高まった

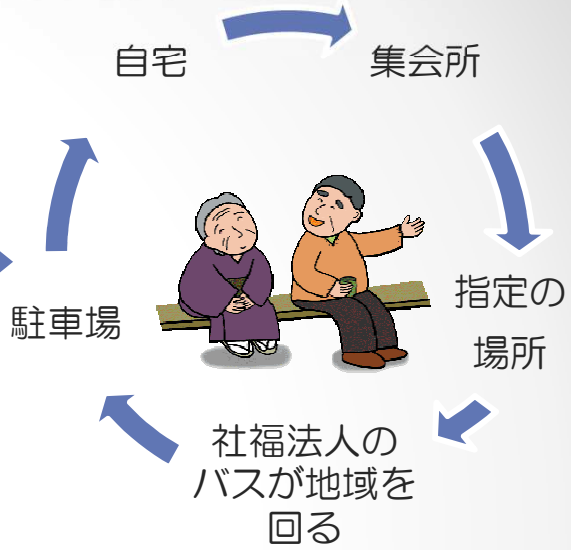
住民への説明が
楽になった

「やってみよう」
が増えた

「幸せます健康くらぶ in 公民館」

向島公民館

移動販売車
（地元のスーパー丸久）



【基本パターンは、イオン開催と同じ】

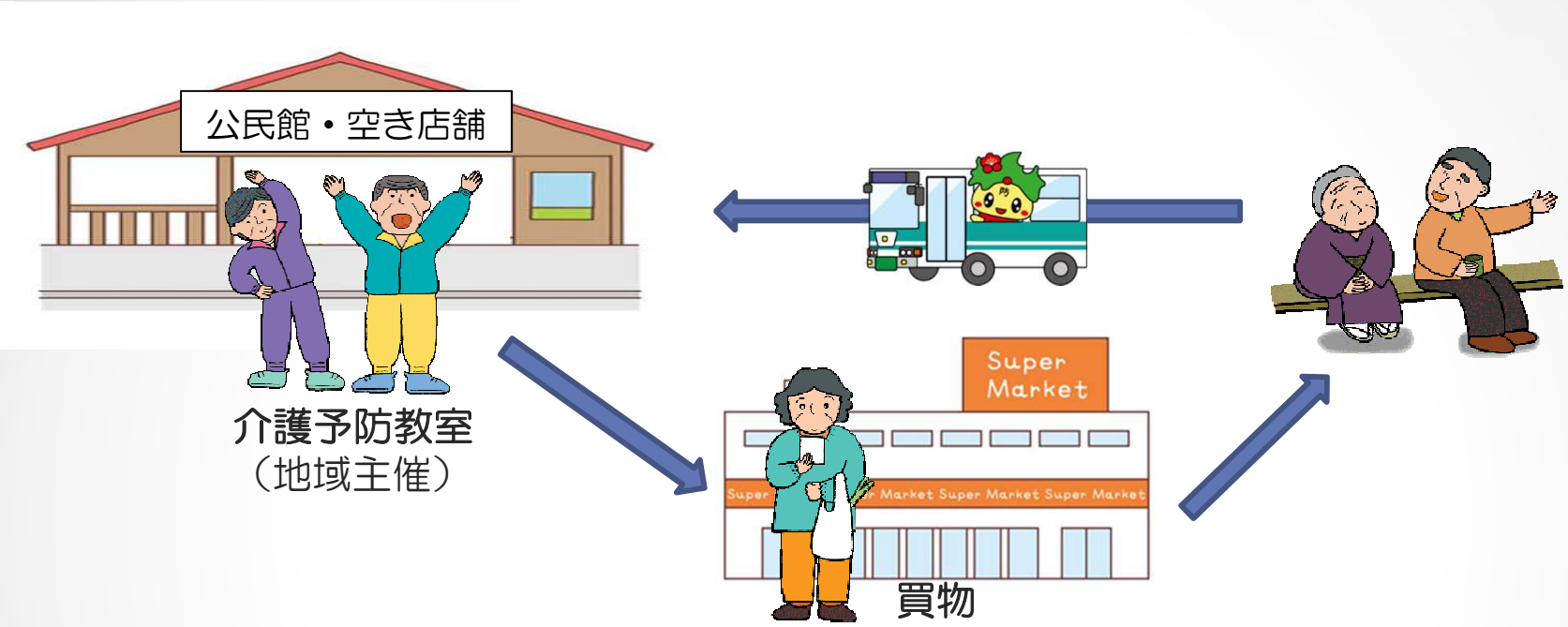
- 買物支援として、移動販売車が公民館に
- 文化活動（工芸品作り）
- 地元の子育て支援団体との交流
  （正月の輪飾り作り教室の準備中です）
- 困りごと、わからないこと発表会
- お弁当ではなく、地元が昼食を提供する
  というケースも

【活性化協議会の取組み】

- 公民館で行う幸せます健康くらぶの進化系
- 地域の特産品の直売所を開く地域の生産者
  団体が運営を担う。（昼食の提供も）
- 他地域の高齢者を呼込むことで直売所の
  成功⇒「活性化」

介護予防と「何か」をコラボさせる

「幸せますデイステーション」（一般介護予防事業）



防府市 → 補助金 → 地域団体

- 講師費用
- 燃料費
- その他

地域団体 → 講師費用の支払 → 介護事業所

地域団体 → 燃料費 → 社福法人

「幸せます健康くらぶ」があったからこそ、社福法人が協力してくれた例。
いきなり、この形をお願いしても、受けてもらえなかったのではないか。

訪問サービスと他サービスのコラボ

『訪問サービスB』

- ゴミの分別
- 資源ゴミの搬出
- 自宅の草刈り

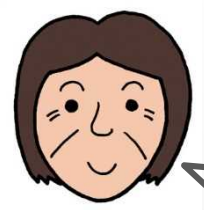
など、ちょっとした困りごと

（利用料）
３０分300円　１時間500円
活動経費を総合事業で補助。

岩畠お助け隊
～災害時の避難支援活動～
避難行動要支援者名簿を活用し、災害時の要配慮高齢者等の避難支援を行う活動も担う。

大内手助け隊「余楽」
～移動支援～
自治会の活動として、無償運送を実施。

防府市牟礼地域　２団体



地域の声

困ったときに助けてもらえる、こんなサービスが地域にあるというだけで、安心して生活できます。
未来に光が差したようです。